CHEA NEWSLETTER 176 号 12

の話で満載です。アブラハム もヤコブもモーセもダビデも パウロもペテロも失敗し、謙 遜にされ、真摯に悔い改め、 そして、神様に励まされ、新 しくされながら、セカンドス テージで特別なミッションを 果たしていきました。いつの 日か笑顔でジョシュアさんと 再会し、一緒にやっていける 日が来ることを期待していま す。「主ご自身がこう言われる のです。『わたしは決してあな たを離れず、また、あなたを 捨てない。』」(ヘブル 13:5)

## 国会議員の皆さんとの対 話より

元地方創生大臣、インタビュー続編に OK! (水月会パーティーにて)

## ①石破茂元地方創生大臣

卒業式の翌日、ロサンゼルスから丸森・明泉の 皆さんの理事会・相談会へ直行しました。80名 あまりの皆さんが聖書にあって話し合われる内容 に、毎回、教えられます。丸森町と仙台でのミー ティングが祝福され、その夜、東京での石破茂元 地方創生大臣のパーティーに参加しました。

「前にインタビューで伺った、伝道者であった 曽祖父の金森通倫さんについて研究された本を、 私の父が送ってくれました。とても興味深いです。 そのうち、石破先生とのインタビューの続編、お 願いします」「そうですか。いいですよ。それでは、 同じ話にならないように、今から勉強しておかな ければならないですね (笑)」「大丈夫です。石破 先生が、今、神様や聖書から何を教えられている か、そのお話を伺えれば、いいなと思っています」 「分かりました。どうぞ、ご連絡ください」

②フリースクール等超党派議員連盟総 会にて「チア・にっぽんからの報告と 改正法への提言」

その週に「フリースクール等国会議員連盟」よ り、国会議員会館での「教育機会確保法」の改正 案に向けた総会に招かれ、チア・にっぽんからの 提案等、報告する機会が与えられました。

河村建夫議連会長(元官房長官、元文科大臣)、 馳浩議連幹事長(元文科大臣)から冒頭、あいさ つがあり、その後、文科省から現状報告、そして 多様な教育をめぐる5つの支援団体からの提案・ 発表の時間となりました。

「(寺田学事務局長)では、チア・にっぽんさん お願いします。」

「(稲葉) 私どもからの提案としては、3年後の 法案の見直しの機会を設けるように、条文、もし くは付帯決議に付け加えていただければ、と思っ ています。各議員、文科省、法制局、各団体ら関 係者の皆さんのお陰で成立・施行されています「教 育機会確保法」の効果も増し、お陰様で学校・教 育委員会の対応等、かなり良い方向に進んでいま す。多様な教育をめぐって激動・変化の時代とも いえるだけに、3年後の見直しの規定を、条文・ 付帯決議等に明記していただければと願っていま す。ホームスクーリング・多様な教育への認知が 少しずつですが、拡がっていると思います。私た ちは、団体を設立して20年目を迎えていますが、 この春の学校・教育委員会との面談において、大 きなトラブル等の報告はありませんでした。

私たちは、プロテスタント系のホームスクーリ ングのサポート団体で、チャーチスクールと呼ん CHEA NEWSLETTER 176 号 13

でいるクリスチャン系のフリースクール約40校 も含め、全国のホームスクーラーをサポートさせ ていただいております。例年、春先には何件かは 不当な圧力をかけられるケース等の相談がありま すが、今年は一番、スムーズに進んだ1年でもあ りました。それには、教育機会確保法の成立と浸 透が大きいと思います。私たちは、チア・マガ ジンという機関紙に、教育機会確保法を4回、約 350ページに渡って特集していますが、そうした 資料を提示しながら面談を進めるように励まして います。「多様な学習の重要性を鑑みる」とした この法律の存在も大きな助けになっています。虐 待事件を受けて文科省から3月に通達を受け、教 育委員会の皆さんらと面談を行った家庭もありま したが、「子どもたちの様子を見て、とてもうれ しくなりました」といった、ポジティブな反応が 全てでした。それで、本当に感謝です。

しかし今後の懸念がまったくないかといえば、 そうではありません。たとえば、登校支援シート という、登校しないことを選んだ子どもたち、家 族への調査書があります。これは、「教育委員会 の調査」という名のもとに、各家族内のプライバ シーや個人の尊厳等に関わる情報を無限に広め、 侵害しかねない、大変な危険性をもった制度で す。外部には知らせたくない情報の開示が無限に 広がっていく状況にあります。教育委員会、学校 の先生、担任だけでなく、主任、科目の先生、ク ラブの先生、カウンセラーの皆さん、小中学校の連携、警察も必要だ…となっていきます。皆さん、良い動機で、その情報を見るとは思いますが、もっと共有し、連携しなければということで、30人、50人、100人と拡がっていきます。情報共有は必要な側面もあるのですが、非常にセンシティブな情報を地域の多くの人たちが知っている状況、教育委員会の判断で情報開示が無限にできることを保護者のハンコーの合意で進める現状のシステム、そこには危険性も含まれています。個人の尊厳、基本的人権を侵害していくという憲法も含めて、違反しかねない可能性も兼ね備えています。

そうした点等を含め、3年後、再び検証できる、 法律の見直し規定を入れることで、さらに良い展 開を図っていくことができたらというのが願いで す。以上です。」

上記提案を含め、いくつかの点を文科省の皆さんが持ち帰り、今後、検討を重ねていくこととなっています。法的な環境も、さらに良き整備ができるように、お祈りいただければ感謝です。

③国家朝餐祈祷会(下村博文元文科大臣・石破茂元地方創生大臣、山川百合 子衆議院議員ほか)

6月12日、約500名が参加し、国家朝餐祈祷会(日本 CBMC/青木仁志理事長主催 ヒルトン東京お台



フリースクール等超党派議連総会にて、多様な教育をめぐる「教育機会確保法改正」に向けて提案趣旨の説明をする筆者(左端・衆議院議員第一議員会館)

CHEA NEWSLETTER 176 号 14



場)が行われました。石破茂元地方創生大臣の隣に、下村博文元文科大臣が座られ、挨拶に行きました。

下村元文科大臣は、多様な教育への制度改革を ご自分のライフワークとして取り組まれ、教育機 会確保法の成立に尽力された議員の一人です。

「(稲葉) 本日はご出席ありがとうございます。 教育機会確保法については大変、お世話になりま した。お陰様で、全国のホームスクーラーたちも 祝福されています。」

「(下村元文科大臣) あ、これはどうも。こちらこそありがとうございます。この会の顧問もされているのですね。今朝のクリスチャンの会は、稲葉さんの日頃のフィールドなのですね。」

「(稲葉) はい、クリスチャンの会は、私の日頃のフィールドです。今朝、集まっておられる皆さんも含め、多くの皆さんに助けられて進めています。」

「(下村元文科大臣) そうでしたか。」

隣に座られていた、チャーチスクールも展開されていた大川従道牧師に、下村元文科大臣が教育機会確保法成立に尽力されたことを紹介、また、下村元文科大臣の隣に座られていた石破元地方創生大臣にも挨拶させていただきました。また主宰者の一人でもある山川百合子議員とは、今後のフリースクール等議員連盟について話せて感謝でした。

朝餐祈祷会では、石破議員が来賓として「世界

の指導者と共に、神の前に罪人であることを詫び、 平和を祈ることを決して諦めてはいけない」と語 られました。会の前後に、たくさんのチアのメン バーや、サポーター、OB・OG の皆さんに声をかけ られ、また、多くの教職者の皆さんからも励まし の言葉をかけてもらいました。神様を心から讃え ました。

## ④笠浩史議員から著書の贈呈

議連の座長代理をされている笠浩史議員から、著書「令和の日本をつくる」を贈呈いただきました。「フリースクール、ホームエデュケーションなど…従来の学校教育だけでなく、多様な学びの選択肢を用意しなければなりません。私は日本で暮らす全ての子どもたちの学びに責任を持つ国でなければいけないと思っています。こうした多様な学びの場に公的な支援を行うための第一歩となる議員立法『教育機会確保法』が成立しました。超党派の立法チームでは21回の協議をした。超党派の立法チームでは21回の協議をした(p129-131より抜粋)」と書かれてありました。多くの皆さんがホームスクーリング・多様な教育のために起こされていることを大変、感謝に思い、主を讃えました。



笠浩史 元文科副大臣 「人づくりなくして、国づくりなし-多様な学びの選択肢を用意しなければならない」